

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381023

研究課題名(和文) 授業研究の「グローバル化」と「ローカル化」に関する実証的研究

研究課題名(英文) Empirical Research on Roles and Values of Lesson Study in the age of Globalization and Localization

研究代表者

久野 弘幸 (Kuno, Hiroyuki)

名古屋大学・教育発達科学研究科・准教授

研究者番号：30325302

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：「授業研究」が国際的な研究の焦点となって約10年が経過し、この間、国際授業研究学会の設立、国際学術大会の開催、専門学会誌の発行がなされるようになった。各国単位でも米国、英国、インドネシアのように組織化が進行している。

本研究から、ローカル化を進めている主体は、WALSに代表されるグローバルな研究資源からの知見と人的ネットワークを自国内に取り込み、また、グローバルなネットワークは、各地区で研究・研修を担っている組織や個人を取り込みながら、ローカルな知見と人的資源を活用していることが明らかになった。このことは、授業研究のグローバル化とローカル化が、相互依存・相互影響の関係にあることを示している。

研究成果の概要(英文)：Since middle of 2000's research and practice of Lesson Study have been increasing quantitatively and qualitatively. Its global growth, for instance, indicates establishing a world-wide organisation such as WALS and annual conference which is involved 500 representatives from more than 40 countries. The localisation of LS also spread in several countries such as in USA, UK and Indonesia, which are establishing local organisation to exchange experiences in the local context.

The research team has revealed following extension and intension of LS. Firstly, Global expansion such as establishing WALS acquires local human network and local knowledges which are gained by local teaching practices. Secondly, LS development at the local networks have been promoted by global network and human resources into their particular context.

The significant research conclusion identified: LS has been grown under strong interactive development and interconnected effectiveness between two different levels.

研究分野：Curriculum Studies

キーワード：授業研究 ネットワーク ロンドン市カムデン区 シンガポール インドネシア 授業研究の持続可能性 学校間ネットワーク Learning community 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

「授業研究」は、2000年代以降、米国およびアジア諸国さらに、2010年代に入って欧州諸国の教員現職研修および教育学研究において急速に関心を高め、拡大している。その背景を巨視的に見ると、世界経済のグローバル化・情報社会化に伴って、知識基盤社会における「21世紀型学力」を視野に入れた教育改革が自国の成長の鍵を握るといった戦略的な教育政策の影響が認められる。他方、学術的視点から捉えると、授業研究に関心を寄せる大学や各国の教員研修機関の研究者によって2009年に「世界授業研究学会(WALS: World Association of Lesson Studies)」が設立され、2012年に国際ジャーナル“International Journal for Lesson and Learning Studies (IJLS)”が発行されるなど、「授業研究」および「教員現職教育」研究の分野は、2000年代後半以降、著しくグローバル化が進展し、研究のネットワークが構築されつつある。

このような文脈を背景に、研究代表者らは2011年から13年にかけて「アジア都市国家における『日本型授業研究・校内研修モデル』導入の可能性に関する研究」として科学研究費を取得し、その成果としてシンガポール・インドネシア(バンドン市)における「日本型」授業研究の有効性を検証し、2本の学術論文にまとめ公表した。

この研究によって、日本を起源とする授業研究が、すでにそれぞれの現地の教員現職研修におけるニーズを吸収し、独自の展開を見せつつあること(ローカル化)ならびに、授業研究に取り組む諸国がWALSのような国際学会や各国が主宰する国際会議などを通じて世界規模で授業研究に関する経験の交流が行われていること(グローバル化)が明らかになった。例えば、シンガポールにおける

「Singapore Lesson Study Symposium (SLSS)」やインドネシアにおける

「International Conference on Lesson

Study」など。

先述のIJLSをはじめとする世界の授業研究に関わる最新の学術的成果は、例えば英国を対象としたDudley(2012)の研究、シンガポールを対象にしたFang & Lee(2012)の研究、インドネシアを対象にしたTatang(2012)の研究にみられるように、いずれも各国の内部に閉じた研究である。研究代表者は、IJLSのInternational Editorial Boardの一員として学術論文の査読を行っているが、査読を通して、現時点がまさに本研究が取り組むような授業研究のグローバル化とローカル化の関連を構造的に明らかにする世界的な研究の端緒にさしかかっていること、本研究が授業研究に関わる研究のさらなる発展を促すものであると理解している。

2. 研究の目的

(1) 授業研究の「ローカル化」の解明

調査対象国(インドネシア、シンガポール、英国)において、学校関係者(校長・教諭)、授業研究の研究者および現職教育担当者へのインタビュー調査および学校関係者向けの質問紙調査を実施し、各国における授業研究に関わる政策的背景・社会文化的背景、大学や国際機関など、実施の担い手と普及・浸透プロセスの解明、授業研究による現職教員研修の実態(普及の度合いや実施の手順・方法等)および効果の解明を行うところまでを研究の範囲とする。

(2) 授業研究の「グローバル化」の解明

世界の授業研究の実態に精通し、世界規模のネットワークを構築してきたWALSの会長であるChristine Lee氏(シンガポール国立教育研究所)ならびに世界的な視点で授業研究による現職教員研修の研究を重ねてきたElaine Wilson氏(英国ケンブリッジ大学)へのインタビュー調査を実施し、教員研修に授業研究を導入することの意味・意義を巨視的な視点から聞き出し、授業研究のグローバル化の特質と構造を明らかにする。

(3) 社会文化的アプローチによる関連構造の解明

上記の調査により明らかにされた、対象国の授業研究の普及・深化の要因とその過程（ローカル化）、および対象国における普及・深化がどのように世界の文脈に位置づけられるのか（グローバル化）を調査対象国の文脈に即して構造的に関連づけ、「世界的な授業研究に関する構造マップ」を作成するなど、社会文化的文脈に即した解明を行うところまでを研究の対象とする。

3. 研究の方法

調査の方法については、半構造化インタビューの方法を用いた個人インタビューを主な方法とし、加えて、授業研究セミナー参加者に対する質問紙調査を行う。また、インタビュー内容の分析の際に、講演で用いられたスライドならびに、講演内容の記録文書の内容確認のために使用する。

4. 研究成果

本研究においては、WALSの会長や地域の授業研究に指導的な立場にある主要な構成員に対して行ったインタビューや、授業研究の国際的セミナーに参加した参加者に対して行われた質問紙調査の結果を分析した結果、以下のことが明らかになった。

授業研究に関わるグローバルなインタラクションが行われる場においては、そこで論じられる教員資質向上等の課題解決の手法や事例について、おおむねローカルな知見を照影していること、また、グローバルなネットワークには、各地のローカルな人的ネットワークの中心にいるキーパーソンが、ローカルな文脈を踏まえて論じることでグローバルとローカルの間をつなぎ、問題解決の手がかりを提起していること。ローカルな場においても、そこにはグローバルな組織から人が招聘され、そこで論じられる知見がローカルに持ち込まれ、両者の実践的文脈交換作用が

おきていること。以上のことから、授業研究の実践と研究の場においては、グローバル化の深化とローカル化の深化が相互影響関係を持って、進展していることが確かめられた。

本研究においては、個別な国・地域に基づくローカル＝グローバル間の相互影響関係については把握することができたが、当初予定していた社会文化的アプローチについては、十分に掘り下げることができなかった。ローカルな文脈およびグローバルな文脈それぞれが、相互に人的・社会的ネットワークに関連付き、その国・地域における授業研究の浸透とその深化に影響を与えているのか、構造的な概念化を行うことが本研究に残された課題である。また、一部のインタビューについては、まだ十分な検討に至っていないため、さらにインタビュー内容の精査分析を行い、研究成果につなげたいと考えている。

また、本研究に取り組む過程で、グローバルな授業研究ネットワークの拠点であるWALSの国際大会が2017年11月に名古屋大学で開催されることが決定した。学術的な意味では本研究の成果とは言えないが、本研究におけるグローバル・ローカル間のネットワーク形成という視点が国際会議の誘致に生かされた。広い意味において、本研究によって得られた成果であるといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

Arani, M. R. S.; Shibata, Y.; Lee, K.-E. C.; Kuno, H.; Matoba, M.; Fong, L. L. & Yeo, J. (2014) Reorienting the cultural script of teaching: cross cultural analysis of a science lesson, World Association of Lesson Studies, International Journal for Lesson and Learning Studies, Vol. 3 Issue 3, 215-235. 査読有り。

(<http://dx.doi.org/10.1108/IJLLS-10-2013-0056>)

千々布 敏弥 (2014)「校内研究としての授業研究の現状と課題」、教育方法 43, 10-21, 査読無。

Alireza, M; Arani, M. R. S. & Kuno, H. (2015) A Collaborative Inquiry to Promote Pedagogical Knowledge of Mathematics in Practice, Issues in Educational Research, Vol. 25 (2), 170-186 (<http://www.iier.org.au/iier25/moghaddam.pdf>), 査読有。

Chichibu, T., (2016) Impact on lesson study for initial teacher training in Japan, International Journal for Lesson and Learning Studies Vo5-2, 155-168, 査読有。

千々布 敏弥・久野 弘幸 (2016)「グローバル化する授業研究とシンガポールにおける授業研究の位置—WALS-Lesson Study Immersion Programme のアンケート分析を基に」、 「グローバル教育」第 18 号, 37-51, 査読有。

〔学会発表〕(計 10 件)

千々布 敏弥 (2014)「授業研究と学校の組織文化」、日本教育工学会 (岐阜大学 = 岐阜県・岐阜市) 2014.9.19.

千々布 敏弥 (2014)「学校の組織開発における授業研究の位置」、日本教育方法学会(広島大学 = 広島県・東広島市) 2014.10.12.

Chichibu, T., (2014) How Supervisors of Educational Administration Empower Lesson Study in Schools: A Survey of Branch Offices of Prefecture Governments in Japan, World Association of Lesson and Learning Studies (Bandung, Indonesia), 2014.11.27.

千々布 敏弥「授業研究のグローバル化とローカル化—WALS-Lesson Study Immersion Programme の実施とその成

果」、日本教育方法学会 (岩手大学 = 岩手県・盛岡市)、2015.10.11.

Chichibu, T., (2015) How Supervisors of Educational Administration Empower Professional Learning Communities in Schools: A Survey of Middle Schools in 6 Prefectures in Japan, World Association of Lesson and Learning Studies (Khon Kaen, Thailand), 2015.11.24.

Kuno, H., (2015) Lesson Study as an Effective Element for Curriculum Implementation and Innovation: Powerful Mediator for Connecting between Classroom and Policy, 6th International Conference on Lesson Study (ICLS), Universitas Pendidikan Ganesha Singaraja, (Bali, Indonesia) 2015. 9.18. <http://alsi-icls.net/>

Kuno, H., (2015) Lesson Study as an Effective Element of the Curriculum Implementation and Innovation: A Powerful Mediator for Connecting between Classroom and Policies, Nazarbayev Intellectual Schools International 'Research into Practice' Conference, NIS for Physics and Mathematics (Astana, Kazakhstan), 2015. 10.16.

<http://www.cpm.kz/ru/news/491754/>

千々布 敏弥「福井県のプロフェッショナル・ラーニング・コミュニティと校長のリーダーシップとの関連」、日本教師教育学会(帝京大学)、2016.9.17.

Chichibu, T., Analysis of the Feedback from LSIP2015 Participants: Using the Framework of Professional Capital by Hargreaves and Fullan, World Association of Lesson and Learning Studies (England), 2016.9.4.

千々布 敏弥「福井県の授業研究実施体制の

分析 - Hargreaves の Professional Capital を基に - 」、日本教育方法学会(九州大学)、2016.10.2.

〔図書〕(計2件)

Hiroyuki Kuno, (2015) Evolving and reforming the curriculum through Lesson Study, Dudley, P. (Ed.), Lesson Study: Professional Learning for our Time, 128-144, Routledge(<http://www.routledge.com/books/details/9780415702652/>) United Kingdom

千々布 敏弥 (編著) (2015) 『県外から来た教師だからわかった福井県の教育力の秘密』学研 (全 199 頁).

〔産業財産権〕 なし
出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

<http://wals2017.com>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久野 弘幸 (KUNO, Hiroyuki)
名古屋大学・教育発達科学研究科・准教授
研究者番号：30325302

(2) 研究分担者

千々布 敏弥 (CHICHIBU, Toshiya)
国立教育政策研究所・研究企画開発部・
統括研究官
研究者番号：10258329

サルカルアラニ・モハメドレザ

(Sarkar Arani Mohammad Reza)
名古屋大学・教育発達科学研究科・准教授
研究者番号：30535696

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者

ピート ダッドリー (DUDLEY, Pete)
ロンドン市・カムデン区・研究員

エレーン ウィルソン (WILSON, Elaine)
ケンブリッジ大学・教育学部・上級講師

クリスティン リー (LEE, Christine)
シンガポール国立教育研究所・CTL・
准教授

エンフゲレル ビヤムバスレン
(BYAMBASUREN, Enkhgerel)
名古屋大学・大学院博士課程前期・大学院